

高等学校「情報」における授業力の育成

篠原孝太郎

1. 授業の展開

導入では、「指導と評価」（日本図書文化協会）「だんわしつ」の文章を提示し、受講者の考え、感想をまとめさせることを続けている。このねらいは、読解力や自らの考え方を整理させる力を目標とするものである。毎時間続けることにより、力がついて行くことを確認している。更に、記述した文書を他の受講者に読ませ、他の人の考え方や受け取り方が自分と違うことを確認させ、一つの文章でも一人ひとり受け取り方の違いを学ぶ。

「授業に目玉を」というテーマで書かれた文章に対し、2人の学生は次のように記述している「学校の本来のねらいが、ひまな学校で、子どもたちにじっくり考えさせたり、じっくり話し合わせたり、じっくり読ませたり、じっくり遊ばせたりしようということだと初めて知った。言われてみれば教師は、ひまがなく多忙であり、一人ひとりの子どもをじっくり見ていない気がする。」

「最初に学校の本来の意味は「ひま」である。と書いてあり、とても面白いと思った。最初にあったこの説明のおかげで、この授業に目玉をという文に、とても興味をもてた。」

このように2人の捉え方が同じ文章でこれだけ違うのである。このことを理解させることがねらいであり、また10人いれば10人、すべてが違うことで他の意見を尊重し、受け入れていく謙虚さを学ぶことになる。

2. 授業の内容

「高等学校学習指導要領解説（情報編）」のテキストを利用し、「普通教科「情報」新設の経緯と趣旨」を説明していく。レジュメの一部を記載しておく。

(1) 普通教科「情報」新設の経緯 1

平成元年学習指導要領の改訂における情報教育

昭和60年6月 臨時教育審議会第1次答申
学校教育における情報化への対応についての提言

「社会の情報化を真に人々の生活の向上に役立てる上で、人々が主体的な選択により情報を使いこなす力を身に付けることが今後への重要な課題である」

昭和60年8月 情報化社会に対応する初等中等教育の在り方に関する調査研究協力者会議第1次審議とりまとめ

「情報化の進展と学校教育の在り方、学校教育におけるコンピュータ利用等の基本的考え方、小学校・中学校及び高等学校の各段階におけるコンピュータを利用した学習指導のあり方などについて提言」

昭和61年12月 臨時教育審議会第2次答申

「情報活用能力とは、情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基本的な資質を指し、読み・書き・そろばんと並ぶ基礎・基本として位置づけ、学

「学校教育においてその育成を図る」と提言
 昭和62年12月 教育課程審議会答申
「社会の情報化に主体的に対応できる基礎的な資質を養う観点から、情報の理解、選択、整理、処理、創造などに必要な能力およびコンピュータ等の情報手段を活用する能力と態度の育成が図られるように配慮する」と提言

以上を踏まえて、
 平成元年3月改訂の学習指導要領の中で、情報教育について、コンピュータ等に関することを中心に規定しており、各学校段階別に次のような取扱いになっている。

【小学校段階】

- ・ コンピュータ等に慣れ親しませることを基本方針としており、特定の教科や領域は設けられていない。

【中学校段階】

- ・ 技術家庭科の新たな選択領域として「情報基礎」を設置。
- ・ 社会科、数学科、理科、保健体育科の各教科で関連する内容を示す。
- ・ コンピュータの効果的な活用を求める。

【高等学校段階の普通教育】

- ・ 数学科、理科、家庭科等にコンピュータに関する内容を取り入れる。
- ・ 学習指導要領に示す教科、科目以外に情報に関する教科、
- ・ 科目を設置者の判断で設けることができる。

(2) 普通教科「情報」新設の経緯2

平成8年7月 中央教育審議会第1次答申
 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」と題する答申が出される。

- ・ これからの情報社会に生きていく子供たちにどのような教育が必要か？
- ・ 教育の改善、充実のためにコンピュータや情報通信ネットワークをどのように生かしていくか？

情報化と教育について推進すべきこと

① 情報教育の体系的な実施

- ・ 高等学校では、小・中学校での学習の基礎の上に立って、各教科でのコンピュータの活用を一層促すような配慮が必要である。
- ・ 専門高校や総合学科については、情報関連科目の充実を図ること。
- ・ 普通科については、学校や生徒の実態等に応じて情報に関する教科、科目が履修できるように配慮することが必要である。

② 情報機器、情報通信ネットワークの活用による学校教育の質的改善

③ 高度情報通信社会に対応する「新しい学校」の構築

④ 情報社会の「影」の部分への対応

平成9年10月 情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議「情報教育調査研究協力者会議」略
 第一次報告「体系的な情報教育の実施に向けて」をまとめる

- ・ 体系的な情報教育についての提言
- a. 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達でき能力 → 「情報活用の実践力」
- b. 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解 → 「情報の科学的な理解」
- c. 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度 → 「情報社会に参画する態度」これらの観点を、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの発達段階に応じて、体系的に育成していくことについて提言がされている。

高等学校については、

「高等学校では、普通教育に関する教科として教科「情報」を設置し、その中に科目

を複数設定する (いずれも2単位程度)。

内容としては、「情報の科学的な理解」及び「情報社会に参画する態度」に関する事項で構成する基礎的な科目を設けることとする。この他、生徒の多様な実態に配慮し、「情報の科学的な理解」及び「情報社会に参画する態度」に関する事項のうち特定の内容に重点を置き、演習、実習を豊富に取り入れた科目や、コンピュータ等の情報手段を積極的に活用する科目を設けるなど、選択の幅を確保することが望ましい。」と述べている。

平成10年7月 教育課程審議会答申

「高等学校においては、情報手段の活用を図りながら情報を適切に判断・分析するための知識・技能を習得させ、情報社会に主体的に対応する態度を育てることなどを内容とする教科「情報」を新設し必修とすることが適当である。」

以上のような答申や報告を踏まえて情報教育の体系化が図られる中で、普通教科「情報」が新設されることになった。

以上

3. まとめ

このような内容でつぎの項目を説明していく。

- ・ 普通教科「情報」の目標
- ・ 普通教科「情報」の科目編成
- ・ 「情報A」の内容
- ・ 「情報B」の内容
- ・ 「情報C」の内容

特に、情報教育の目標については平成25年度よりの新しい学習指導要領の普通教科「情報」にも引き継がれていて、情報教育の柱になっている。このため講義にはこの点を重視し、説明に時間を費やしている。